

2014年5月12日

中国事情研究部会 2014年第1回研究会報告

報告者:中国事情研究部会 山本忠士

2014年度第1回の中国事情研究部会について、以下ご報告いたします。

開催日時:2014年5月10日午後2時~4時30分

テーマ:「日中の留学生交流―主として留学生の日本体験」

場所: 亜細亜大学太田記念館 (図書館) プレゼンテーションルーム 2

参加者: 11名

<主な内容>

1. 14:00~14:10 ご挨拶と日中留学生交流概況紹介: 山本忠士
2. 14:10~14:40 事例発表:
大森敦夫 (亜細亜大学国際交流センター留学生支援課主事)
「亜細亜大学における留学生受け入れ」
3. 14:40~15:20 留学生の留学体験
「日本に留学して感じたこと」
魏 越 (青山学院大学大学院修士課程修了留学生)
王 猛 (亜細亜大学大学院博士課程在籍留学生)
4. 15:20~16:00 研究報告
「ある戦前中国留学生の個人史 (仮題)」
長井壽満 (日本国際情報学会 総合情報研究部会長)
5. 16:00~懇談会

<概況>

今回は、日中の留学生交流をテーマとした。会場を提供いただいた亜細亜大学の留学生受け入れの実情について、同大学の留学生支援課大森敦夫主事から実務の立場から報告いただいた。(大森氏は学生時代、新疆ウルムチの新疆財経大学に2年留学した経験を持つ。)

引き続き、この3月に青山学院大学大学院を修了した魏越さんと亜細亜大学大学院博士課程3年の王猛さんから、留学生から見た日本社会の体験について報告いただいた。この留学生二人は、報告者(山本)の吉林師範大学時代の教え子でもあり、成長した姿をまじかに見ることができて感慨深いものがあった。<個人的感想をお許してください。>

最後に、本学会の総合情報研究部会長でもある長井壽満さんから「ある戦前中国留学生の個人史」と題する張季飛に関する(研究発表があった。)

研究会終了後は懇談会を行い、研究会として北京・西安を中心とする4泊5日(9月25日(木)~29日(月))の中国旅行計画について、案内があった。

以上

